

---

# 情報リテラシー科目の履修者にみる新入学生の コンピュータとの親和性とタイピング力

松 山 智恵子

## 要旨

1年次必修科目「コンピュータと情報Ⅰ」の履修者を対象に、PCとの親和性とタイピング力の調査を行った。その結果、親和性については、入学してPCを定期的に使用するようになってから6カ月以内の学生が6割弱とやや多かった。また、入学後に授業等でPCを使用する機会が増えたことにより、PCを使うことが好きになった学生が多くなり、PCに対する興味・関心が高くなっていることが分かった。一方で、学生のタッチタイピングできる割合については、約7割の学生はタッチタイピングできているレベルに達していないことがわかった。また、PCに不慣れな学生にとってはタイピングがスムーズにできることがPCの使用にかなり影響があることもわかった。

---

## 1. はじめに

近年のスマートフォンの普及はすざましく、青少年にも深く浸透してきている。平成29年度の青少年のインターネット利用調査<sup>1)</sup>によれば、高校生のスマートフォン利用率は95.9%と高く、インターネットの利用率も94.1%となっている。また、インターネットの利用内容は、コミュニケーション(91.1%)、動画視聴(83.6%)、音楽視聴(81.6%)、情報検索(76.7%)が多く、次いでゲーム(72.9%)である。一方、青少年(小・中・高生)のインターネットを利用する機器は、スマートフォン(50.0%)、タブレット(24.8%)、携帯ゲーム機(24.5%)の順になっており、ノートPC(14.6%)やデスクトップPC(6.0%)は低位である。このように、スマートフォンが高校生の身近な情報ツールとして使われているものの、PCの利用は低下している。このため、大学への新入学

生のうちPCの利用経験をあまり持たない学生の割合は多いと考えられる。この状況は本学の新入学生にも当てはまり、本学の大学情報教育開発センターの報告<sup>2)</sup>によれば、ワープロや表計算などの使用経験がある新入生は80%を超えているものの、そのうちワープロで文書の編集ができる割合は約60%、表計算ソフトでデータ入力ができる割合は約50%で、逆に言うと新入学生全体の約40%はほとんどワープロを使ったことがない。このような点から、本学の新入学生についてもコンピュータとの親和性はあまり高いとは言えない。

大学での初年次情報教育においては、オフィス系ソフトウェアなどを扱うスキルの修得を中心としたコンピュタリテラシーの教育が行われるケースが多い。本学においても全7学部共通の情報リテラシー科目として「コンピュータと情報Ⅰ」が必修化されており、筆者が所属する文化情報学部においても2000年度の学部開設以来、初年次情報教育にふさわしい授業内容を準備し改善を図りながら実施されている。その一つとして、情報

処理スキルの修得において、キーボードからの文字入力、すなわちタッチタイピングはPCを利用する上で最も基礎的な情報スキルととらえ、筆者は新入学生のタイピング力の把握とその向上策についてこれまで検討してきた<sup>3)4)</sup>。

本稿では、初年次必修の情報リテラシー科目である「コンピュータと情報Ⅰ」において筆者が担当しているクラスの履修者の親和性についても同様のことが言えるのか調査する。また、授業開始時と終了時に行ったタイピング力についても検討する。

## 2. 調査方法

筆者が担当する「コンピュータと情報Ⅰ」を履修している1年次学生38名について、授業の14回目（入学して3か月経過した7月）に学生がPCとの親和性を持っているかを調査するために、以下の10項目を設定した。また、各問の選択肢を含む質問票を付録1に示す。

1. PCを定期的に使うようになってから、どのくらいの期間経ちましたか？
2. 現在、大学での授業を含め、1週間のうちPCをどのくらい使用していますか？
3. 現在、どんな用途でPCを使っていますか？ 授業を含め、使っている用途をすべて回答してください（複数回答可）
4. 現在、あなたのタッチタイピングは（自己評価で）どのくらいですか？
5. 現在、PCを使って何か（Web検索、ワープロ、その他）をするのは、好きですか？
6. 大学入学後、PCを使用する授業を受けてからPCに対する興味・関心はどのように変化しましたか？
7. 現在のあなたのPCスキルで「できる」ことを回答してください（複数回答可）
8. タイピングがスムーズにできることと

PCに対する親近感とに関係があると思いますか？ 関係がある・ないについてどちらの意見でも結構ですので、あなたの考えを書いてください（自由記述）

9. PCを使用してどんなことができるとよいと思いますか？（自由記述）
10. スマートフォンとPCの使い分けはどのようにしていますか？ できれば具体的な事柄を挙げて説明してください。ただし、個人情報やプライバシーにかかわることがわらは避けてください。

PCを使った経験が高いほどPCとの親和性が高くなることから、問1でPCを定期的を使用するようになってからの経過期間、問2で1週間のPC使用日数、問3でPCの使用用途を質問した。問4では、PCを操作する上での基本となるキー入力のためのスキルとしてタッチタイピングがどの程度できるかを学生自身の自己評価で回答してもらうように設定した。問5ではPCを使用することが好きか、問6ではPCを使用する機会の増えた大学入学後にPCへの興味・関心に変化したかを問い、PCとの親和性に変化があったのかを調べた。問7では、PCをどのような用途に使うことができるかにより、PCへの興味との関連性が見えてくるので、学生自身が「できる」としているPCスキルを問うた。問8ではタイピング練習がPCに対する親和性と関係があるかについて、学生自身がどう思っているかを記述してもらうようにした。問9では学生がPCを利用する上で、どのような目標を持っているかを知るために、大学での今後の学びの中で、学生が身につけたいと思っているPCスキルを記述してもらった。最終の問10では、インターネットのサービスを利用する際のPC利用が減っている近年の傾向がある中でその現状を把握するために、学生がPCとスマートフォンをどのように使い分けているのかを自由記述してもらった。

以上の10項目を授業支援システム WebClass の「テスト/アンケート」教材として作成し、Web アンケート形式（記名式）で実施した。

### 3. 履修者のコンピュータとの親和性の調査結果

#### 3.1 PCを定期的に使うようになってからの期間

図1に示すように「6か月以内」が57.9% (22名) と最も多く、ついで、「1年から2年以内」が10.5% (4名)、「10年以上」が10.5% (4名)であった。これらより、PCを定期的に使用するようになってから「6か月以内」と回答した学生が約6割を占めていることがわかる。6か月以内ということは、学生が大学入学する前の2月以降から入学後の7月までということになるので、これらの学生は小・中・高校時代にはそれほどPCを使う

機会がなかったと思われる。

#### 3.2 1週間のPCの使用頻度

大学入学後の7月現在、大学での授業を含めたPC利用が1週間のうち何日あるのかを調べた結果、図2に示すように「週3日」が42.1% (16名) と最も多く、「週2日」が21.1% (8名)であった。また、「週5日」と「ほぼ毎日」はそれぞれ10.5% (4名)であった。

これより、週3回もしくは週2回が多いことがわかり、授業での利用も含め定期的に使用していることがわかった。ここでは、PCとの親和性との関係性を週当たりの使用日数によったが、1回の使用時間も併せて調査する必要があると思われる。

#### 3.3 現在のPCの使用用途（複数回答可）

PCの使用用途は、図3に示すように「WWW（インターネット検索、Web閲覧）」が84.2%と最も

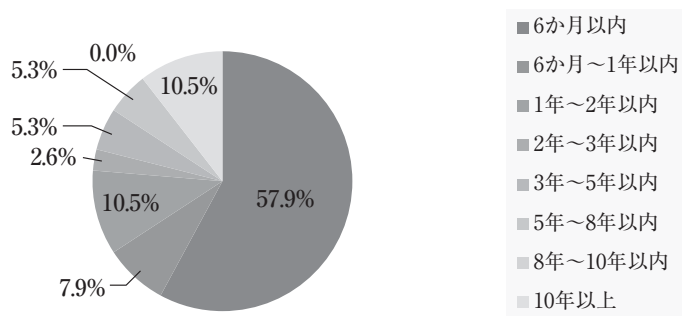


図1 PCを定期的に使うようになってからの期間

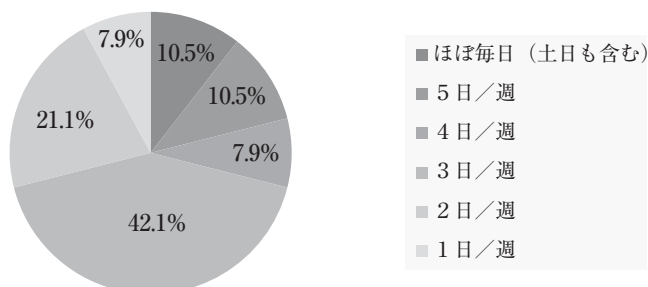


図2 1週間のPCの使用日数（大学入学後）

多く、ついで、「ワープロ」71.1%、「動画視聴」が63.2%であった。スマートフォンでも利用できる「SNS」は23.7%、「ゲーム」は18.4%、「電子メール」は13.2%であった。また、「サウンド編集」、「表計算」、「その他（レポートや授業の課題）」も「電子メール」と同率で13.2%であった。

「WWW」が最も多い理由としては、大学でのレポートや課題などの学習に必要な情報収集のためのインターネット検索での利用が考えられる。「ワープロ」については必修科目である「コンピュータと情報Ⅰ」の学習内容に含まれているためと思われる。「動画視聴」については、平成29年度の青少年のインターネット利用調査でも高校

生の動画視聴は83.6%と利用率が高かったことから、動画を視聴したいニーズが高いと推測される。

### 3.4 タッチタイピングできる度合い（自己評価）

学生の自己評価でタッチタイピングできるかを回答してもらった結果（図4参照）、「キーの配置は覚えたが、確認しながらタイピングしている」が47.4%、「50%くらいタッチタイピングできる」が26.3%で、「キーの配置がまだ覚えきれていない」が18.4%、と全体的にタッチタイピングの自己評価はやや低めであった。

問1のPCの利用歴が6か月以内の学生が多い

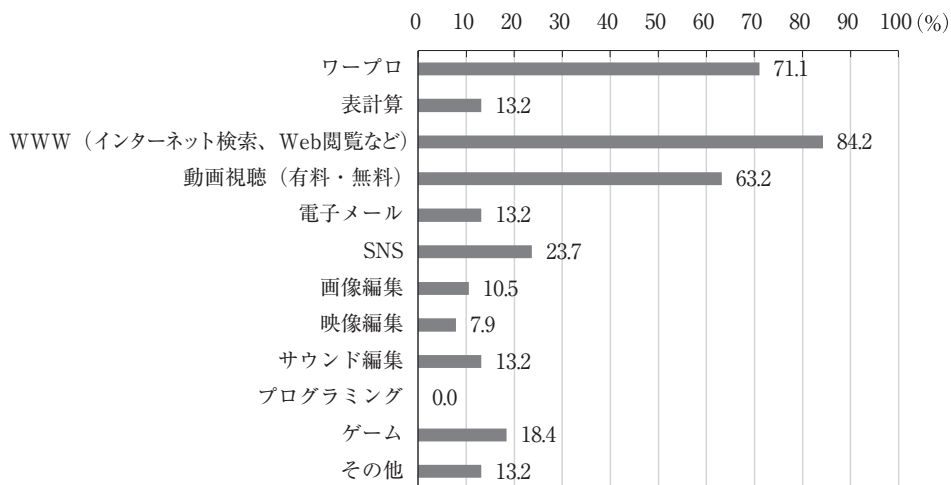


図3 現在のPCの使用用途（複数回答可）

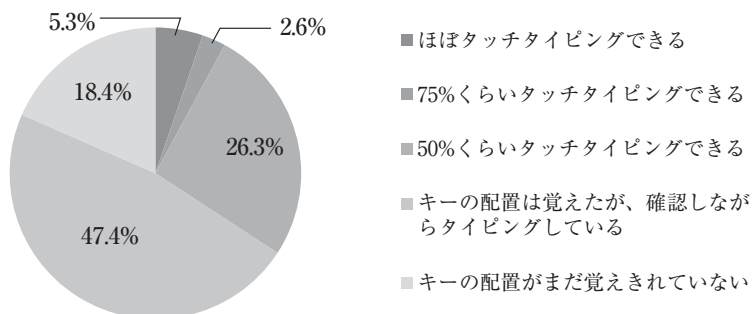


図4 タッチタイピングできる度合い（自己評価）

ことから想定できるように、タッチタイピングでがあまりスムーズにできていないと認識している学生が多い。これより、タッチタイピングの練習等を継続しておこなう必要がある学生が多いことがわかる。

### 3.5 PCを使って何か(Web検索、ワープロ、その他)をするのは好きか

PCを使うことが好きか否かを調査した結果(図5参照)、「まあまあ好き」が55.3%と半数を占め、「かなり好き」13.2%、「好き」23.7%を合わせると92.2%となった。このことから、ほとんどの学生はPCに対して好感を持っていることがわかる。一方で、「あまり好きではない」は7.9%(3名)であった。

### 3.6 大学入学後のPCに対する興味・関心の変化

大学入学後、PCを使用する授業を受けてから

PCに対する興味・関心はどのように変化したかを調査した結果(図6参照)、「まあまあ興味・関心が高くなった」が63.2%、「かなり興味・関心が高くなった」が18.4%で合わせて81.6%が興味・関心を高めていることがわかった。

このことから、問1のPCを定期的に使うようになってか6か月以内の学生が多かったことも併せて推測すると、授業等でPCを使う機会が増え、PCに対する意識が変化してきたことがうかがえる。

### 3.7 PCのできる用途(複数回答可)

学生がPCのできる用途としては、図7に示すように「YouTubeなどの動画視聴」が100%、「ネット検索」が97.4%、「ワープロでレポート作成」が94.7%、「パワーポイントでスライド作成」が86.8%、「Amazon、楽天などを含むオンラインショッピング」が84.2%、「電子メールの送受信」が78.9%と8割以上の学生がPCのできる用途に

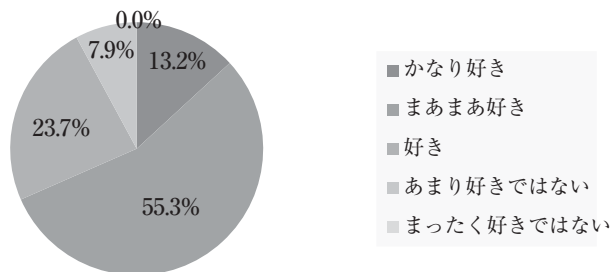


図5 PCを使って何かをするのは好きか

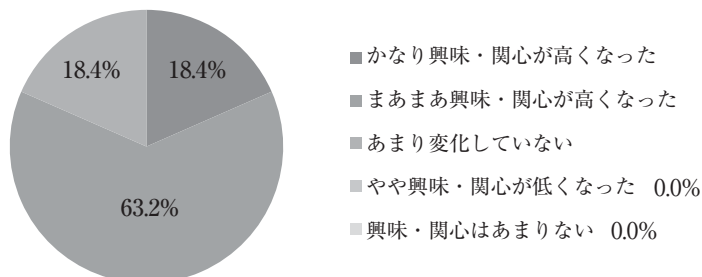


図6 PCに対する興味・関心の変化

挙げている。また、「SNSの記事投稿」が65.8%、「表計算で表やグラフを作成」が55.3%で6割前後であった。一方、「Skypeなどのテレビ通話」や「YouTubeなどの動画サイトへのアップロード」23.7%、「イラスト制作」23.7%、「画像編集・映像編集」が21.1%と2割前後の履修者はやや難易度の高い用途で使用していることがわかった。

### 3.8 タイピングとPCに対する親近感の関係

学生自身がタイピングをスムーズにできることとPCに対する親近感に関係があるかをどのようにとらえているかを記述式で回答してもらった結果、97.4%の学生がタイピングとPCに対する親近感に「関係ある」と回答していた。具体的な記述のうち、「タイピングがスムーズに出来るようになると、気軽に出来るので親近感がわくと思う。また、今はあまり得意ではなくて好きではない人もタイピングがスムーズに出来るようになるとパソコンを打つ（キーボード入力）のが好きになると思う。」「スムーズにタイピングできるほど作業の効率も上がり、普段からPCを使用したいと

思うようになる。また、実際に私もタイピングができるようになったことでPCを使う頻度が増えた。」などのように、タイピングがスムーズにできると作業効率が上がることやPCをもっと使おうという気持ちになるという主旨の記述の割合が55.3%であった。

これらのことから、タイピングがスムーズにできることは、PCでの操作のストレスが軽減する、もしくは、PCに不慣れである学生にとってPCに慣れ親しむための第一歩になりえることがわかる。

### 3.9 PCを使用してできるようになりたい用途（複数回答可）

PCを使用してどんなことができるようになりたいかを聞いたところ、図8に示すように「動画・画像編集」が52.6%、「PPT（パワーポイント）」が34.2%、「Word」が31.6%、「プログラミング」が18.4%、「EXCEL」が18.4%、「HP制作」が13.2%、「サウンド編集」が10.5%であった。このことから、本授業で学習したWordやPowerPointをより利用できるようになりたいとしていることがわかる。また、「動画・画像編集」52.6%と半数の学生がPCを使用してできるようになりたい

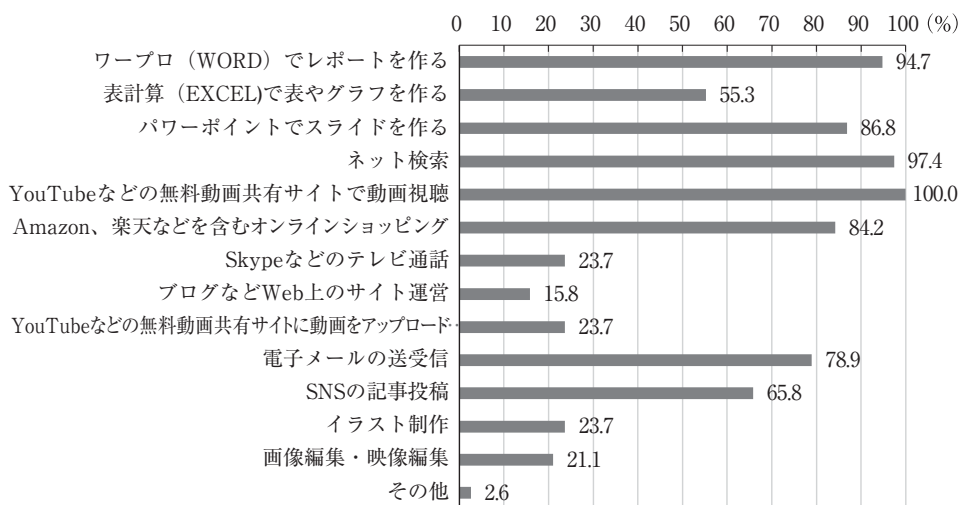


図7 PCでできる用途（複数回答可）



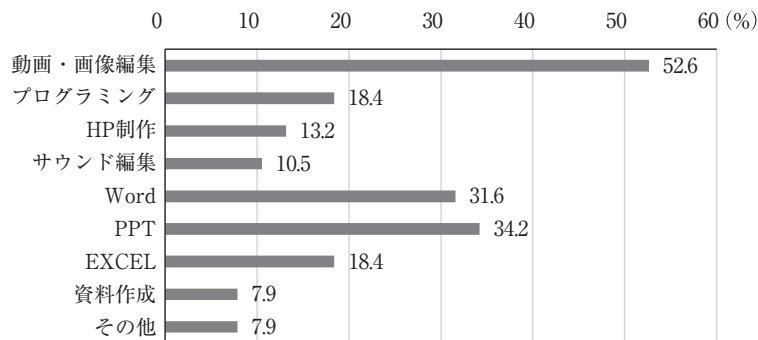


図8 PCを使用してできるようになりたい用途

と考えていることがわかる。さらに、プログラミング、HP制作、サウンド編集などのより専門的なスキルについての割合はそれぞれ18.4%、13.2%、10.5%と10%台と少ないものの修得したいとしている学生がいることがわかる。

### 3.10 スマートフォンとPCの使い分け

学生がスマートフォンとPCの使い分けをどのようにしているかを記述式で回答してもらった結果、「SNSやメッセージなど普段使いしているのがスマートフォンで、レポートの作成や調べものなど課題や勉強に関わることはPCを利用している。」「物事を調べたいとき、SNSを使うときにはスマートフォンを使い、WORDやパワーポイントの時はPCを使っている。動画を見る際は、スマートフォンもPCも両方使っている。」「スマホは連絡を取ったり動画を見たり写真を撮ったり音楽を聴いたりなど日常的なことに使っている。パソコンは主に授業の課題やレポート作成に使っている。」などの記述が多かった。

これらのことから、大学でのレポートや課題などはPC、SNSはスマートフォン、動画視聴などのようにどちらでもできることはスマートフォンとPCを状況に応じて判断し、PCとスマートフォンを使い分けていることがうかがえる。

これらのことから、本授業を履修する学生にお

いては、PCを定期的を使用するようになってから6カ月以内の学生が6割弱と半数を超えており、PCにやや不慣れである学生が多いことが分かった。また、タッチタイピングできる度合いもキーを確認しながらタイピングしている(47.4%)学生や50%くらいタッチタイピングできる(26.3%)学生が多く、タッチタイピングを修得するために、タイピング練習を継続的にする必要があることがわかった。一方で、9割以上の履修者がPCを使って何かをするのは好きということもわかり、大学入学後PCを使用する授業を受けてからPCに対する興味関心を高めている学生が多い(81.6%)こともわかった。

## 4. 授業開始時と終了時の タイピング力の調査

筆者の担当しているクラスでは、授業の始めに10分程度のタイピング練習時間を設けている。タイピング練習ソフトとして、本学部のPC演習室に導入している「CIEC Typing Club」<sup>5)</sup>を用いており、タイピング力として1分あたりの入力文字数(字/分)の記録をとった。このソフトはWebサーバーに練習記録が保存でき、学内のPCからアクセスすることができる。また、増田式キーボード練習を採用しており、初心者でも短時間でタッチタイピングを修得できるとして多くの大学等で

採用されている。

タイピング力の記録は、練習テキストの「初級テキスト英文」と「ことわざ（ひらがな）」の2種類のテキストを実行したときのスコアデータを取得した。開始時調査は授業の2回目、終了時の調査は14回目に実施した。

表1に開始時と終了時の調査結果を示す。表1より、開始時の平均タイピング速度は86.5字/分、最高値255字/分、最低値30字/分、標準偏差は36.7であった。この平均タイピング速度を、文化情報学部の過去のタイピング速度の推移<sup>6)</sup>と比較すると、4月入学時の新入学生の平均タイピング速度が最も速い2012年度の記録97.5字/分より約10字/分遅いことがわかった。

また、4月から7月までの3月ほどのタイピング練習を授業内で実施した後の終了時は、平均タイピング速度は106.7字/分、最高値264字/分、最低値58字/分、標準偏差は38.0であった。終了時の平均タイピング速度は開始時から約20字/分の向上があることから、例年と同程度の向上があることがわかった。

これまでの調査では、タイピング力の記録として英文テキストを使用してきたが、実際に学生がワープロ等の入力をする際には、ローマ字入力による日本語入力をおこなうことが多いので、今回の調査では英文テキストに加えて「ことわざ（ひらがな）（以下ひらがなと略す）」でも記録をとった。

ひらがなの開始時の結果では、平均タイピング速度68.4字/分、最高値252字/分、最低値26字/分、

標準偏差39.7、終了時では平均タイピング速度91.0字/分、最高値261字/分、最低値48字/分、標準偏差38.6であった。ひらがなのキー入力は、通常ローマ字入力となるため、1文字入力するために英字キーを2文字程度打鍵する必要がある。このため1分間で入力できる文字数は英字の場合より少なく、平均タイピング速度は英字の場合と比べ、開始時では18.1字/分、終了時では15.7字/分と遅い。しかし、各学生の開始時と終了時のタイピング速度比を終了時/開始時（字/分）で求めたものの平均は、英字で1.30倍、ひらがなで1.43倍となり、0.13倍の差ではあるが、ひらがなのタイピング速度の方が終了時に速くなっていることがわかった。

このことから、タイピング練習を毎回の授業の中で10分程度実施してきたが、ある程度キーの配置が覚えられてきた後のタッチタイピングの上達を進めるには、ひらがな（日本語）を練習テキストにすることが効果的な練習になる可能性がある。

## 5. タイピング力とタイピングできる度合いの自己評価との関係

学生がタイピングできる度合いを問4で自己評価しているが、この評価と実際のタイピング力との関係性を調べ、その客観性を確認した。図9にタイピングできる度合いの自己評価とタイピング力（字/分）の関係図（散布図）を示す。また、タイピング力とタッチタイピングできる度合いとの相関係数は-0.69であり、相関があることがわかった。

表1 開始時と終了時のタイピング力の調査結果

	開始時(英字)	終了時(英字)	開始時(ひらがな)	終了時(ひらがな)
平均速度	86.5	106.7	68.4	91.0
最高値	255	264	252	261
最低値	30	58	26	48
標準偏差	36.7	38.0	39.7	38.6

(単位：字/分)



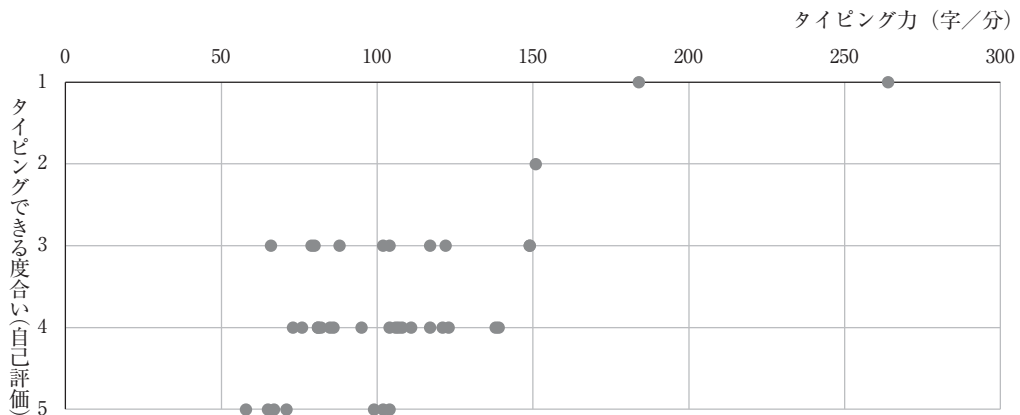


図9 タイピング力 (字/分) とタイピングできる度合いの自己評価との関係

図9より、タイピングできる度合いの各項目に対応する実際のタイピング力 (字/分) は、次のようになる。

- [1] ほぼタッチタイピングできる学生は184字/分以上である
- [2] 75%くらいタッチタイピングできる学生は151字/分 (1名のみのため) である
- [3] 50%くらいタッチタイピングできる学生は、66～149字/分と幅がある
- [4] キーの配置はおぼえたが、確認しながらタイピングしているレベルは73～139字/分の幅がある。50%できるレベルとかなり重複した速度である学生も自己評価では、まだ確認している意識が強いのではないと思われる。
- [5] キーの配置がまだ覚えきれていない学生は58～104字/分の幅があるが、99～104字/分の速度であれば、上記の[3]、または[4]と回答してもおかしくないと思われる。

学生自身の自己評価によるタッチタイピングできる度合いはタイピング速度がある程度速い場合には、タッチタイピングできるという自信につながり、回答として「ほぼできる」、「75%できる」と回答されることが考えられる。逆に、「50%くらいできる」や「キーの配置は覚えたが、確認しながら

らタイピングしている」というレベルはタイピング速度にかかわらず、自己認識として「できている」ととらえるか、「確認している」ととらえるかの差になっていると考えられるため、タイピング速度が同じ程度でも「50%できる」という学生と「確認しながらタイピング」している学生に分散してしまったと言える。

これらのことから、「50%タッチタイピングできる」と「キーの配置をおぼえた」レベルの線引きはあいまいであることがわかった。したがって、今後同様の調査をする際には、学生自身のタッチタイピングできる度合いの自己評価の順序尺度として選択肢の設定の仕方を考慮していく必要がある。

## 6. まとめ

「コンピュータと情報Ⅰ」の履修者である1年次学生を対象に、コンピュータとの親和性について調査した結果、インターネットを利用する端末としてスマートフォンを使用する世代の新入生においては、入学前後から定期的にPCを利用するようになった学生の割合が約6割となることがわかった。また、PCを継続的に使用するようになることで、PCに対する興味・関心が高くなり、

PCを使うことが好きだとする学生の割合はかなりの多いこともわかった。

一方、PCでの操作において基礎となるキーボード入力においては、タッチタイピングできる新入学生は3割程度であることがわかった。今回の調査から、タイピングがスムーズにできれば、PCを積極的に使う気になりやすいことが言えることから、タッチタイピングの修得は親和性を高めるための重要なスキル修得の一つであると言える。

今後は、情報リテラシー科目におけるタッチタイピングの修得を効果的に行うために、タイピング練習の練習テキストの工夫などを検討し、コンピュータとの親和性を高めるための環境作りを進めていきたい。

## 参考文献

- 1) 内閣府、「平成29年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」、[http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h29/jittai\\_html/index.html](http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h29/jittai_html/index.html) (平成30年3月)
- 2) 椙山女学園大学大学情報教育開発センター、「平成30年度新入学生の情報リテラシーに関する調査」、平成30年6月（非公開）
- 3) 松山智恵子、中島豊四郎、「年度による新入生のタイピング力の推移—文化情報学部新入生を例として—」、椙山女学園大学研究論集、第46号、自然科学篇、pp. 13-19 (2015)
- 4) 松山智恵子、中島豊四郎、「新入学生のタイピング練習効果の推移」、椙山女学園大学文化情報学部紀要、第14巻、pp. 101-109 (2015)

まつやま・ちえこ / 文化情報学部准教授  
E-mail : chiekom@sugiyama-u.ac.jp

## 付録 アンケート質問票

**設問 1** PC (WindowsやMacOS)を定期的に使うようになってから、どのくらいの期間経ちましたか？

「定期的に使う」とは、授業なども含め、一定の期間や間隔を置いてPCを使う機会があったことととらえてください。

例えば、大学入学以降に定期に使うようになった場合は、6か月以内と回答してください。

1. ☐ 6か月以内
2. ☐ 6か月～1年以内
3. ☐ 1年～2年以内
4. ☐ 2年～3年以内
5. ☐ 3年～5年以内
6. ☐ 5年～8年以内
7. ☐ 8年～10年以内
8. ☐ 10年以上

**設問 2** 現在、大学での授業を含め、1週間のうちPCをどのくらい使用していますか？

1. ☐ ほぼ毎日（土日含む）
2. ☐ 5日／週
3. ☐ 4日／週
4. ☐ 3日／週
5. ☐ 2日／週
6. ☐ 1日／週

**設問 3** 現在、どんな用途でPCを使っていますか？ 授業も含め、使っている用途をすべて回答してください。（複数回答可）

1. ☐ ワープロ
2. ☐ 表計算
3. ☐ WWW（インターネット検索、Web閲覧など）
4. ☐ 動画視聴（有料・無料）
5. ☐ 電子メール
6. ☐ SNS
7. ☐ 画像編集
8. ☐ 映像編集
9. ☐ サウンド編集
10. ☐ プログラミング
11. ☐ ゲーム
12. ☐ その他

**設問 4** 現在、あなたのタッチタイピングは（自己評価で）どのくらいですか？  
タッチタイピングとは、手元を見ずにタイピングできることを言います。

1. ☐ ほぼタッチタイピングできる
2. ☐ 75%くらいタッチタイピングできる
3. ☐ 50%くらいタッチタイピングできる
4. ☐ キーの配置は覚えたが、確認しながらタイピングしている。
5. ☐ キーの配置がまだ覚えきれていない

**設問 5** 現在、PCを使って何か（Web検索、ワープロ、その他）をするのは、好きですか？

1. ☐ かなり好き
2. ☐ まあまあ好き
3. ☐ 好き
4. ☐ あまり好きではない
5. ☐ まったく好きではない

**設問 6** 大学入学後、PCを使用する授業を受けてからPCに対する興味・関心はどのように変化しましたか？

1. ☐ かなり興味・関心が高くなった
2. ☐ まあまあ興味・関心が高くなった
3. ☐ あまり変化していない
4. ☐ やや興味・関心が低くなった
5. ☐ 興味・関心はあまりない

設問 7 現在のあなたのPCスキルで「できる」ことを回答してください。（複数回答可）

1. ☐ ワープロ（WORD）でレポートを作る
2. ☐ 表計算（EXCEL）で表やグラフを作る
3. ☐ パワーポイントでスライドを作る
4. ☐ ネット検索
5. ☐ YouTubeなどの無料動画共有サイトで動画視聴
6. ☐ Amazon、楽天などを含むオンラインショッピング
7. ☐ Skypeなどのテレビ通話
8. ☐ ブログなどWeb上のサイト運営
9. ☐ YouTubeなどの無料動画共有サイトに動画をアップロード
10. ☐ 電子メールの送受信
11. ☐ SNSの記事投稿
12. ☐ イラスト制作
13. ☐ 画像編集・映像編集
14. その他

設問 8 タイピングがスムーズにできることとPCに対する親近感とに関係があると思いますか？

関係がある・ないについてどちらの意見でも結構ですので、  
あなたの考えを書いてください。

字数制限：上限 20000 字まで

現在 0 文字。あと 20000 文字まで入力できます。

□ 設問移動・終了  
ボタンをクリック  
時にも回答が  
保存・提出され  
ます。  
□ 半角・全角ス  
ペース、タブ文  
字、改行は文字  
としてカウント  
されます。  
□ 機種依存文字は  
使用しないでく  
ださい。

回答を保存

設問 9 PCを使用してどんなことができるとよいと思いますか？

あなたが身につけたいスキルを具体的に書いてください。  
こんなことができるようになるといいなあという事柄でもよいです。

字数制限：上限 20000 字まで

現在 0 文字。あと 20000 文字まで入力できます。

□ 設問移動・終了  
ボタンをクリック  
時にも回答が  
保存・提出され  
ます。  
□ 半角・全角ス  
ペース、タブ文  
字、改行は文字  
としてカウント  
されます。  
□ 機種依存文字は  
使用しないでく  
ださい。

回答を保存

設問 10 スマートフォンとPCの使い分けはどのようにしていますか？

できれば具体的な事がらを挙げて説明してくれるとわかりやすいです。  
ただし、個人情報やプライバシーにかかわることがらは避けてください。

字数制限：上限 20000 字まで

現在 0 文字。あと 20000 文字まで入力できます。

□ 設問移動・終了  
ボタンをクリック  
時にも回答が  
保存・提出され  
ます。  
□ 半角・全角ス  
ペース、タブ文  
字、改行は文字  
としてカウント  
されます。  
□ 機種依存文字は  
使用しないでく  
ださい。

回答を保存

終了